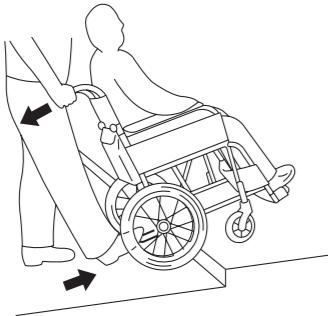


段の上がりかた

- 1 足元のティッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャスターを段の上にあげます。



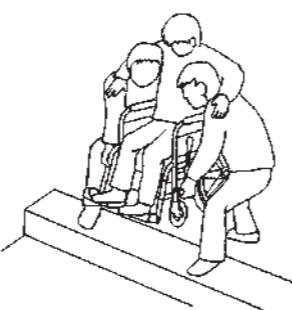
- 2 駆動輪・主輪を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。
*無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

車いすに乗ったまま持ち上げる場合

△警告

持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、背折れジョイント、レッグパイプ、フット・レッグサポートなどは持たないでください。

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行ない、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかりと持って持ち上げます。



段の下りかた

手押しハンドルとティッピング部分で車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。

*無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。

*段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。車いすの破損や故障の原因となります。

製造元



株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号
TEL 052-694-0333 FAX 052-694-0800

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

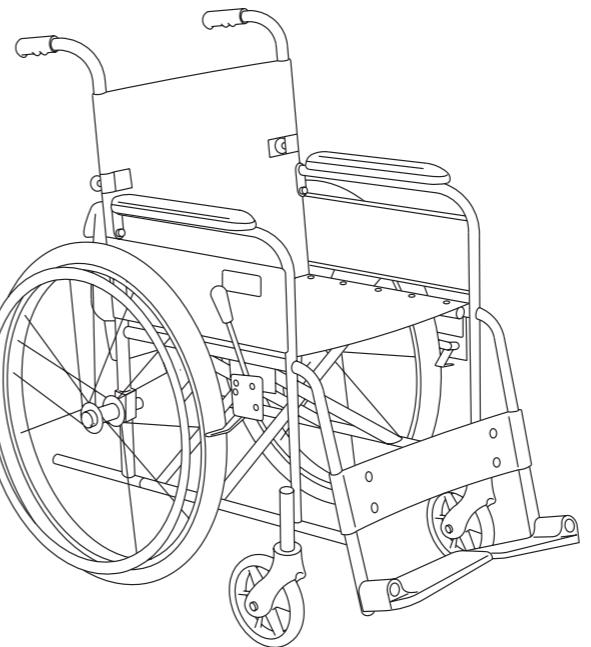
標準型車いす

取扱説明書

より快適に車いすをお使いいただくために

はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。



目次

安全上のご注意	2
各部のなまえ	5
使いかた	6
ブレーキのかけかた	6
開きかた/たたみかた	7
乗り降りのしかた	8
アームサポートフレームの跳ね上げ	9
アームサポートの取り外し・取り付け	9
フット・レッグサポートの開閉	
・取り外し	10
フット・レッグサポートの取り外し	
・取り付け	10
各部の調節のしかた	11
アームサポートの高さ調節	11
フットサポートの高さ調節	11
フット・レッグサポートの上げ下げ	13
バックサポートの張り具合調節	13
連結バーの取り付け・取り外し	
[片手駆動(シャフト式)仕様車のみ]	14
使用上のご注意	15
保守・点検	15
走行上のご注意	15
段の上がりかた	16
段の下りかた	16



* SGマーク制度は、車いすの欠陥によって発生した人身事故に対する賠償制度です。
* 安全性が確保されています。
* 誤使用を防ぐために取扱説明書がついています。
* SGマーク付き製品の欠陥により人身事故が起きた場合は、賠償制度が実施されます。

安全上の注意

ご使用の前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

⚠ 危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。

⚠ 警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】



警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠ 危険

スピードを出さないでください。
スピードが出ているときに急カーブを行ったり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



- 自走用であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。**
- 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。**

⚠ 警告

乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。
駆動輪・主輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

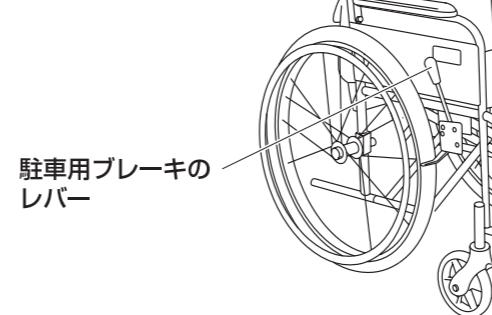
走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

- 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。**
ブレーキがかからっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

⚠ 警告

乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。

レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



走行中は、アームサポートの跳ね上げ、フット・レッグサポートの開閉をしないでください。
転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

跳ね上げ式アームサポートを跳ね上げた状態で走行しないでください。
使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。

跳ね上げ式アームサポートを戻した後は、必ずロックされたことを確認してください。
使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。

開き式フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

開き式フット・レッグサポートを閉じた後は、必ずフックで固定されたことを確認してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。

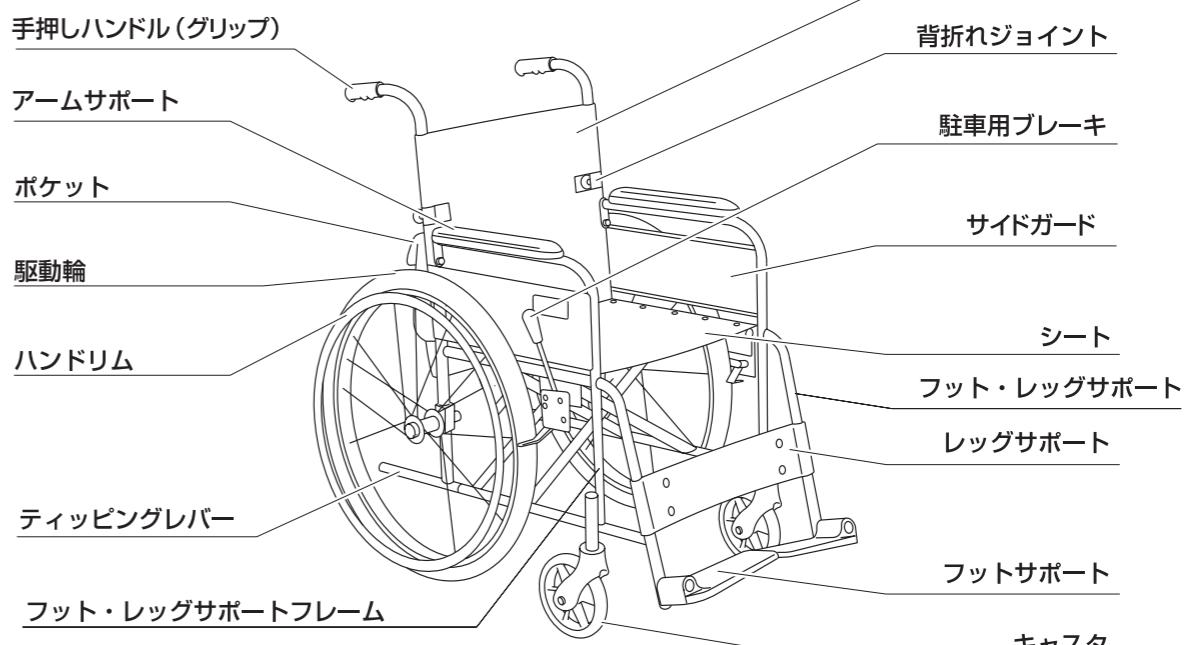
【エアタイヤの場合】
タイヤの空気圧低下に注意し、必要な場合は補充してください。
タイヤの空気圧が低下すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。また、空気圧が低下した状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損するおそれがあります。

【ハイポリマータイヤの場合】
タイヤの摩耗に注意してください。
タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

各部のなまえ

下図は標準仕様車です。車いすによっては、装備や形状が異なります。

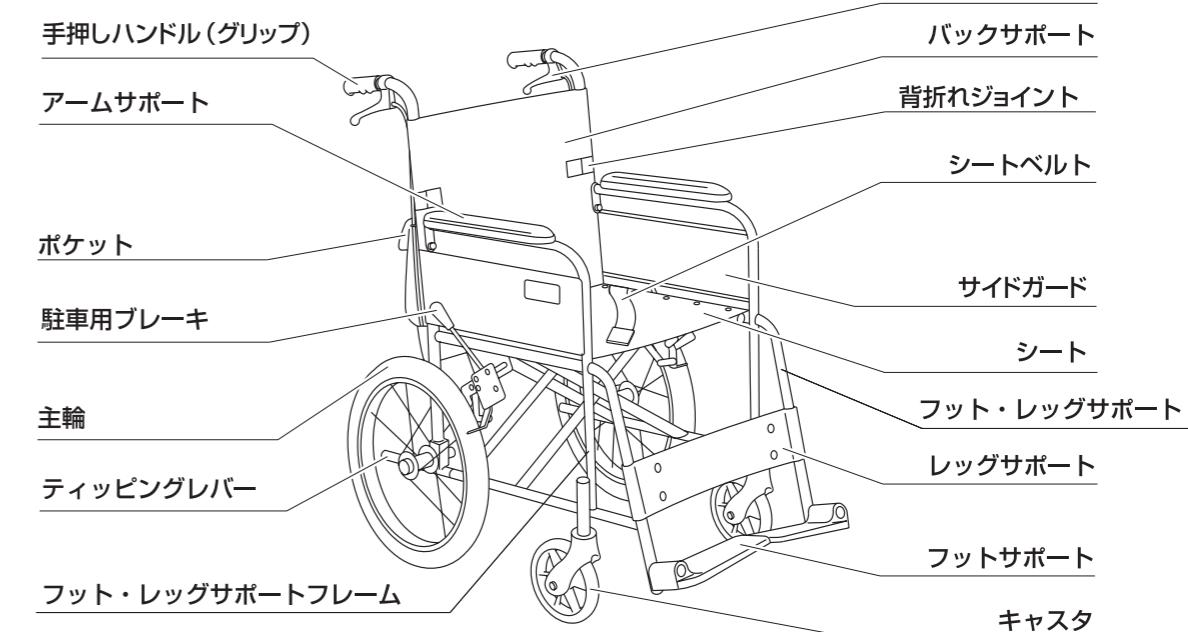
自走型



この車いすは、自分でハンドリムを駆動して操作する車いすです。
この車いすは、特別な身体保持具、バックサポートの角度調整、座位の姿勢変換等の機構がない標準型の自走用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。
なお、購入時はこの標準型が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。

※自走型でも介助用として使用する場合は、制動用ブレーキ(オプション)、シートベルト(オプション)が付いているものをお選びください。

介助型



この車いすは、介助者が操作する車いすです。

この車いすは、バックサポートの角度調整、座位の姿勢変換等の機構がない標準型の介助用車いすです。
なお、購入時はこの標準型が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。

※制動用ブレーキ、シートベルトはオプションです。

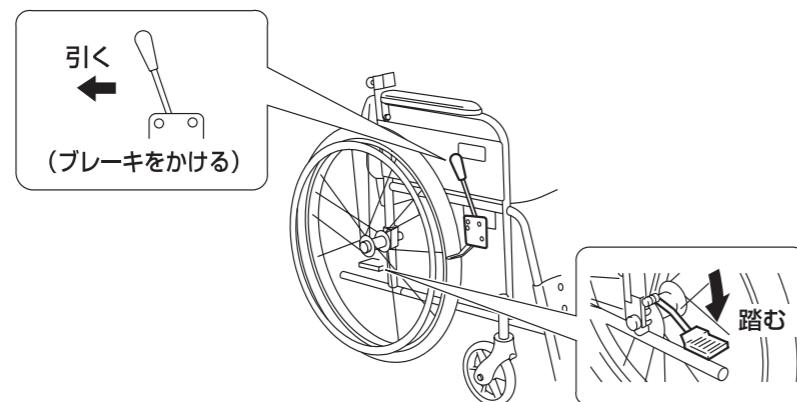
使いかた

ブレーキのかけかた

<p>△警告</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかるといないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。 乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。 タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。
--

● 駐車用ブレーキのかけかた

使用者が、左右の駐車用ブレーキレバーを手前に引いてかけます。
ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。

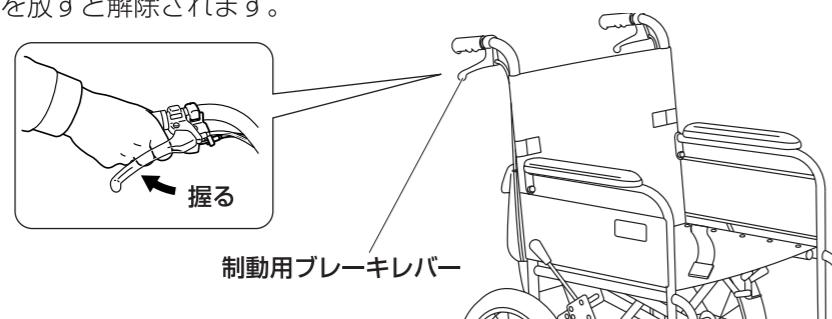


● 制動用ブレーキのかけかた

<p>△危険</p> <ul style="list-style-type: none"> スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。
--

<p>△警告</p> <p>ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。</p>

介助者が、左右の手押しハンドル下の制動用ブレーキレバーを握ってかけます。
ブレーキレバーを放すと解除されます。

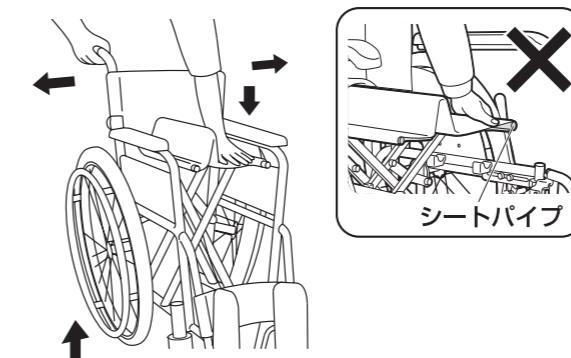


開きかた/たたみかた

<p>△注意</p> <ul style="list-style-type: none"> シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。 必ずブレーキをかけて操作を行ってください。 背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。
--

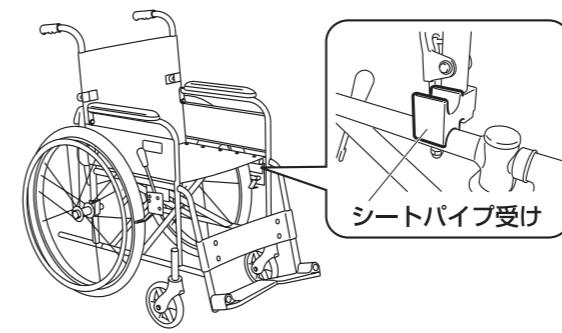
● 開きかた

- 手押しハンドルを両側とも上げます。
*開口部に手や指を近づけないでください。
- 手押しハンドルを持って、軽く左右に開きます。
- 片側の車輪を少し浮かせて、その状態を保ちます。
- 車輪を浮かせていない側のシートの表面を、手の平で押して開きます。
*シートパイプを握らないでください。



片側の車輪を浮かせる

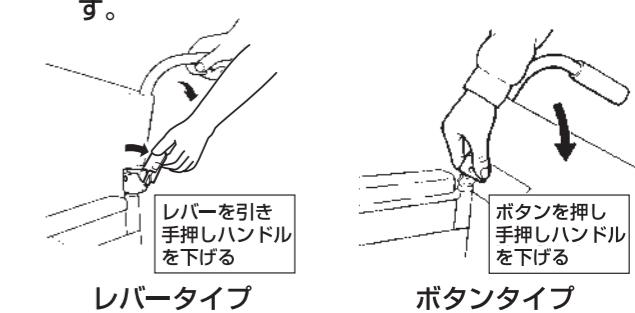
【シートパイプ受けが付いている場合】
シートパイプ受けに、シートパイプがしっかりとはまっていることを確認してください。
*しっかりとはまっていない場合は、シートパイプの中央付近を押してはめてください。押す時は、シートパイプの先端を押さないでください。フレームが変形する恐れがあります。



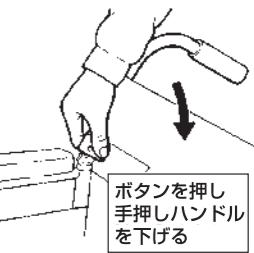
シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。

● たたみかた

- 車いすの駐車用ブレーキを両輪にかけておきます。
- 図のように、手押しハンドルを両側とも下げます。



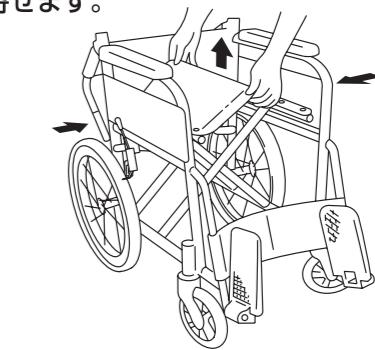
レバータイプ



ボタンタイプ

- フットサポートを両側とも上げます。

- シートの前後を持ち上げて、シートパイプを引き寄せます。



- 左右のアームサポートを外側から内側に押し、シートを折りたたみます。

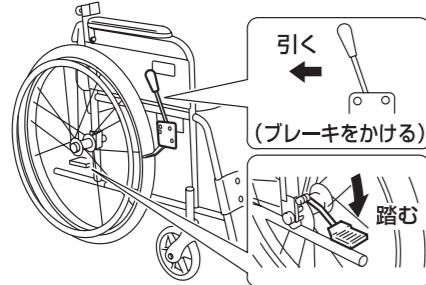
乗り降りのしかた

△警告

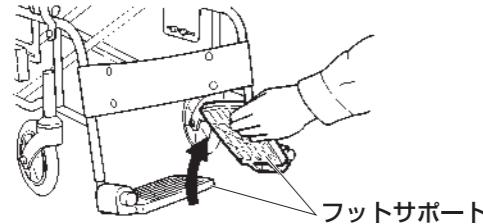
- ・乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。
- ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

● 乗りかた

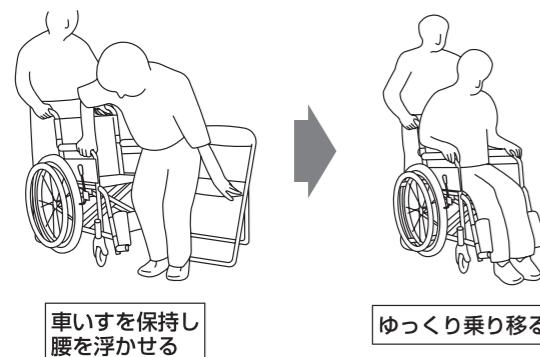
- 1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。



- 2 フットサポートを両側とも上げます。
* フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをするおそれがあります。
* 上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをするおそれがあります。

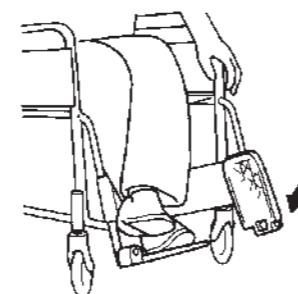


- 3 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。



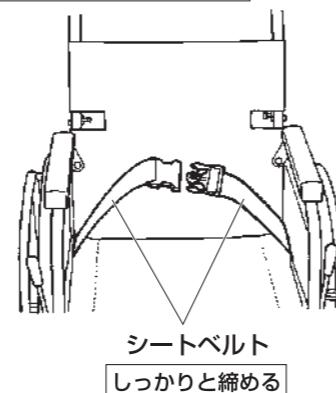
- 降りかた
「乗りかた」と逆の要領で行なってください。

- 4 フットサポートを降ろして両足を乗せます。

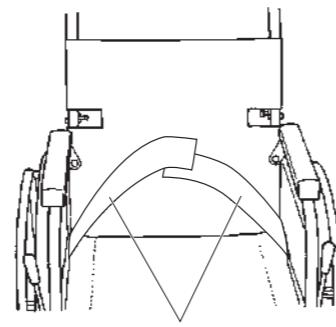


- 5 シートベルト（オプション）を締めます。
* 体格に合わせてシートベルトを調整し、座位をしっかりと安定させてください。

ワンタッチシートベルト



マジックシートベルト



アームサポートフレームの跳ね上げ

アームサポートフレームをワンタッチで後方へ跳ね上げることができます。ベッドと車いすの間の移乗などがスムーズに行なえます。

△注意

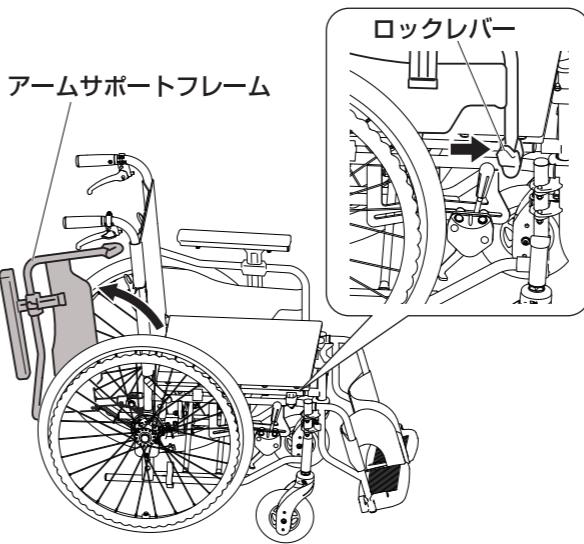
- ・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行ってください。
- ・アームサポートフレームを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者が転倒、落下するおそれがあります。
- ・アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してください。アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

ウイングロック

● 跳ね上げかた

Aタイプ

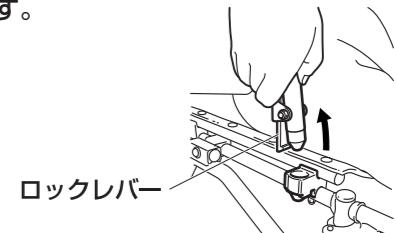
- ロックレバーを押しながら、アームサポートフレームを後方へ跳ね上げます。



- * アームサポートフレームを上げた状態で、アームサポートフレームに力を加えないでください。フレームが変形し故障の原因となります。

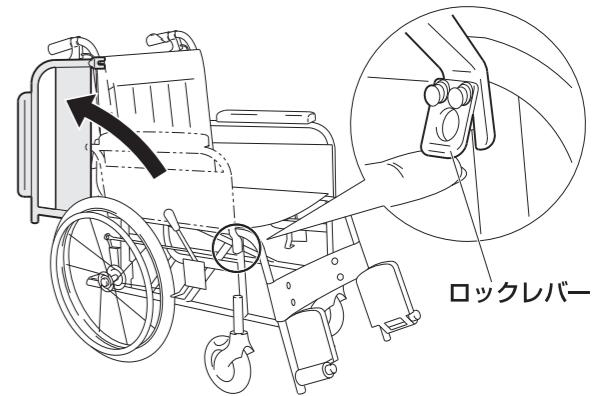
Bタイプ

- ロックレバーの上側を押しながら、アームサポートフレームを持ち上げて後方へ跳ね上げます。



Cタイプ

- ロックレバーを外側に引きながら、アームサポートフレームを後方へ跳ね上げます。



● 戻しかた

- △注意 アームサポートフレームを下ろすときは、身体をはさまないように注意してください。

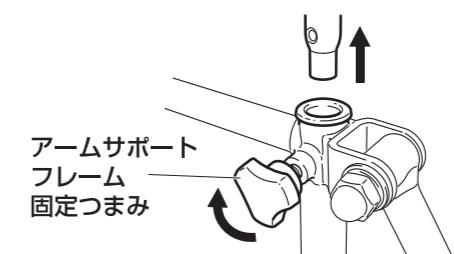
アームサポートフレームを下ろし、完全にロックされたことを確認します。

- * アームサポートフレームを下ろした後、アームサポートフレームが完全にロックされていることを確認してください。

アームサポートの取り外し・取り付け

● 取り外しかた

- アームサポートフレーム固定つまみをゆるめ、アームサポートフレームを真上に引き上げて取り外します。



● 取り付けかた

- アームサポートフレームの前後をはめ込み、しっかりとはまつたことを確認してから、アームサポートフレーム固定つまみを締め込みます。

フット・レッグサポートの開閉・取り外し

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

△警告

- ・フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行なってください。
- ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者が転倒、落下すると、事故やけがにつながるおそれがあります。

● 開きかた

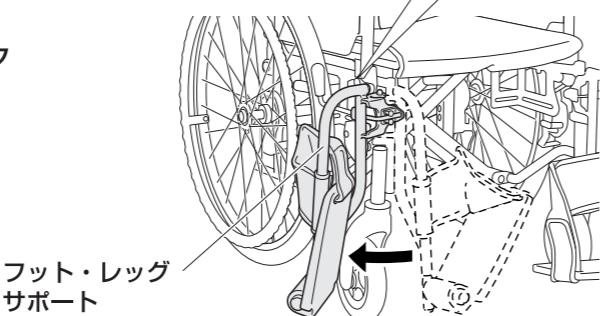
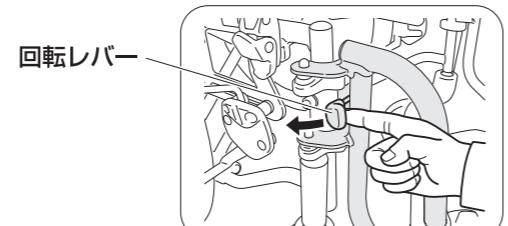
回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。

● 閉じかた

△注意

- フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。



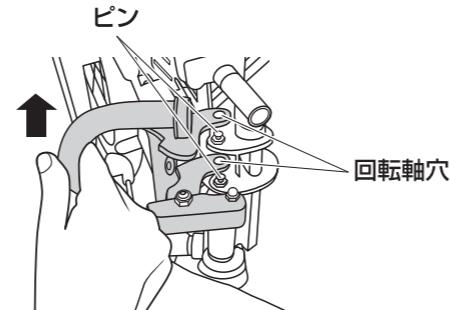
● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。

● 取り付けかた

車体フレーム側の2つのピンにフット・レッグサポート側の回転軸穴（2箇所）を合わせてはめ込みます。

* フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。



フット・レッグサポートの取り外し・取り付け

車いすによっては、用途や好みに応じてフット・レッグサポートを取り替えることができます。フット・レッグサポートを取り替えるときは、下記方法に従って、フット・レッグサポートの取り外し・取り付けを正しく行なってください。

△警告

- ・フット・レッグサポートの取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行なってください。
- ・フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者が転倒、落下すると、事故やけがにつながるおそれがあります。

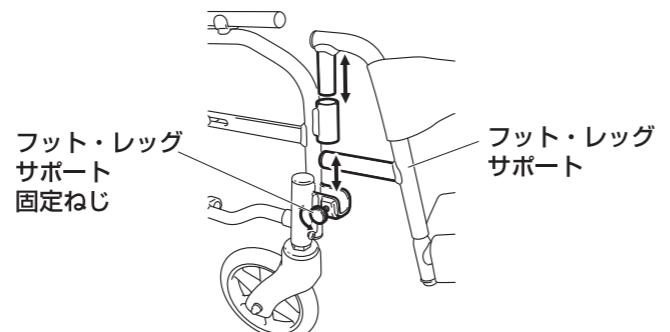
● 取り外しかた

フット・レッグサポート固定ねじをゆるめた後、フット・レッグサポートを垂直に引き上げて取り外します。

● 取り付けかた

取り外しと逆の要領でフット・レッグサポートを取り付けた後、フット・レッグサポート固定ねじをしっかりと締め付けます。

* 取り付け後、フット・レッグサポートが確実に固定されていることを確認してください。



各部の調節のしかた

△警告 各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行なってください。

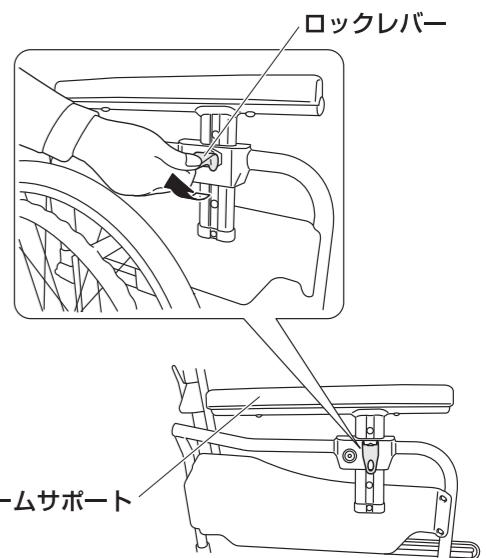
アームサポートの高さ調節

△注意

- ・高さ調節をした後は、必ず固定されたことを確認してください。
- ・調節中にアームサポートが下がり、アームサポートフレームとアームサポートの間に指をはさまないよう注意してください。けがをするおそれがあります。
- ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 ロックレバーを引いてロックを解除します。
- 3 アームサポートの高さを調節し、希望の高さでロックレバーを押し下げます。
- 4 ロックレバーがいっぱいまで下がり、アームサポートが確実に固定されていることを確認します。

* 反対側も同じ高さに調節してください。
* 調節後、アームサポートがしっかり固定されていることを確認してください。



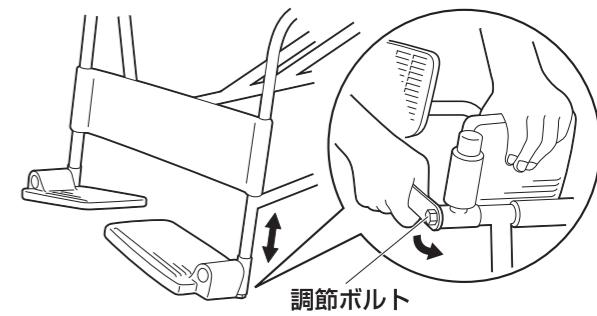
フットサポートの高さ調節

使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

ポスト式フットサポート

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 フット・レッグサポートの裏側の調節ボルトをスパナなどでゆるめます。
- 3 使用者の足に合わせ、フットサポートの高さを調節します。
- 4 調節を終えたら、調節ボルトを締め付けて固定します。

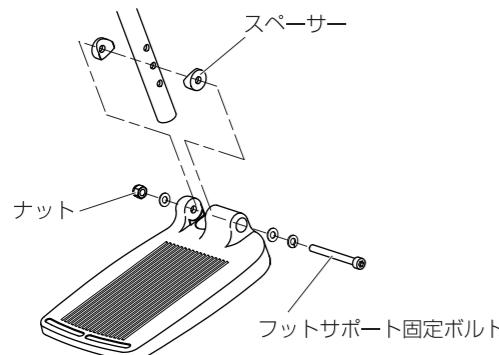
* 反対側も同じ高さに調節してください。
* フットサポートが回転せず、しっかり固定されていることを確認してください。



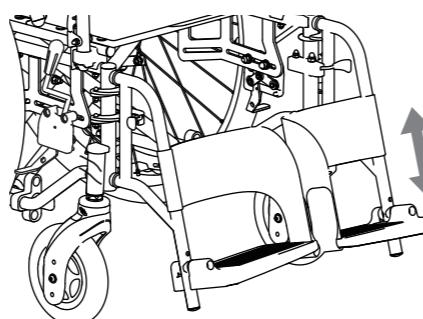
軽量フットサポート

フットサポートは20mm間隔で3段階の高さに調節することができます。

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 フットサポートを下ろした状態で、フットサポート固定ボルトを外します。



- 3 脚の長さに合わせてフットサポートの高さを調節します。



- 4 希望の高さの穴を決めたら、フットサポート固定ボルトを差し込み、ナットと共に締め付けて固定します。

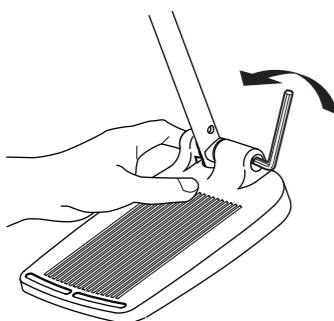
*反対側も同じ高さに調節してください。

フットサポート調節のコツ

取り外すとき

- 1 六角レンチ等を使ってフットサポート固定ボルトを反時計回りに回します。反対側からナットが飛び出したら、ナットを指で押さえておきます。

△注意 ボルトがナット側に突き出ているときは、ナットを指で押さえているとけがをする恐れがありますのでご注意ください。



- 2 フットサポート固定ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトとナット、およびワッシャー類を取り外します。

取り付けるとき

- フットサポート固定ボルトの位置合わせをするときは、穴をのぞいてそこにボルトを挿入してください。
- フットサポートは、片手で回転できるくらいの固さを安全に取り付けてください。このとき、フットサポート固定ボルトを締めすぎないように注意してください。

フット・レッグサポートの上げ下げ

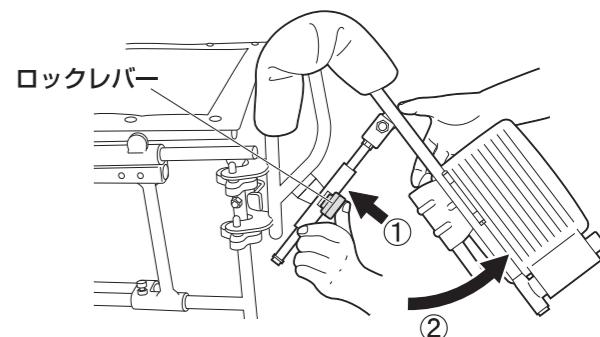
フット・レッグサポートの角度をお好みに合わせて変えることができます。脚を持ち上げたいときや、ひざ関節の曲がる範囲が限られている場合などに便利です。

メカニカルロックタイプ

角度の変えかた

ロックレバーを上に押し込んでロックを解除し、フット・レッグサポートを引き上げて角度を調節します。ロックレバーを離すと、フット・レッグサポートはロックされます。

- * フットサポートが回転せず、しっかり固定されていることを確認してください。
- * 反対側も同じ角度に調節してください。

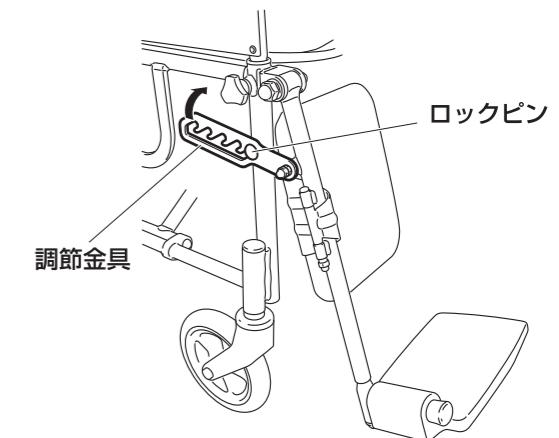


5段階調整タイプ

角度の変えかた

△注意 調節金具とロックピンの間に指をはさまないよう注意してください。

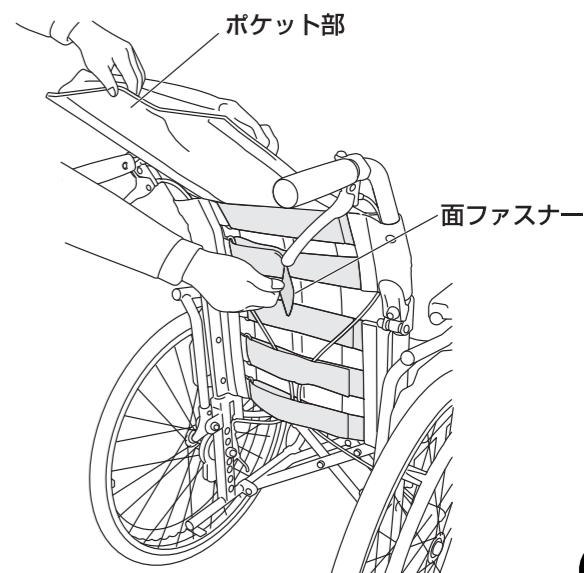
- 1 調節金具を上に持ち上げてロックを解除します。
- 2 フット・レッグサポートが希望の角度になる位置で、調節金具を下ろします。
 - * このとき、ロックピンが調節金具の穴にしっかりとまり、ロックされたことを確認します。
 - * フット・レッグサポートがしっかり固定されていることを確認してください。
 - * 反対側も同じ角度に調節してください。



バックサポートの張り具合調節

*バックサポートの張り具合を隨時チェックし、必要に応じて調節してください。

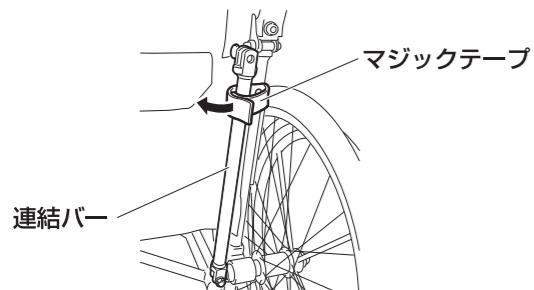
- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 ポケット部をめくり上げます。
- 3 面ファスナーをはがし、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。
 - * 手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。
- 4 ポケット部を元に戻します。



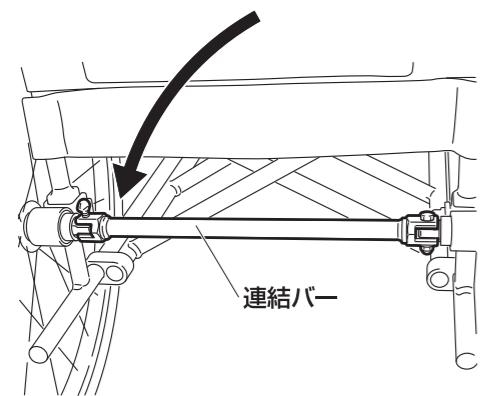
連結バーの取り付け・取り外し [片手駆動(シャフト式)仕様車のみ]

● 取り付けかた

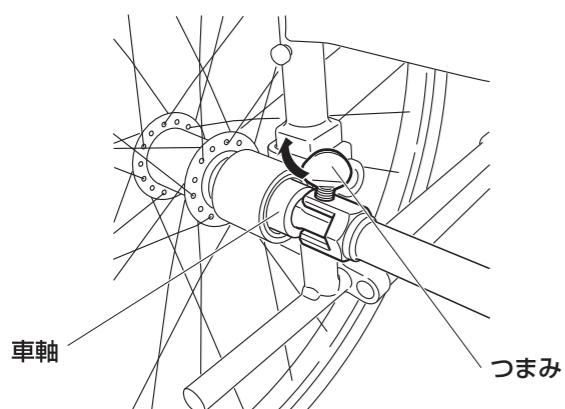
- 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 連結バーを留めているマジックテープを外します。



- 連結バーを反対側の車軸につなぎます。



- 車軸を回してネジのつまみの部分を上に向け、しっかりとネジを締め付けます。

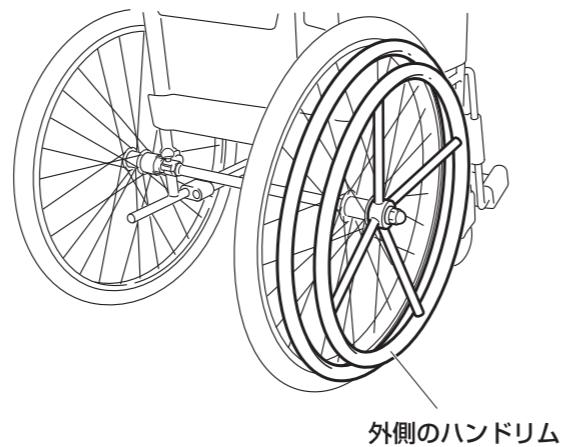


● 取り外しかた

取り付けとは逆の要領で、連結バーを取り外してください。

● 操作のしかた

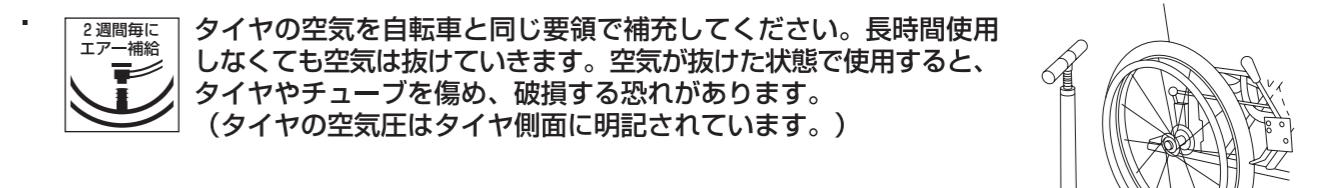
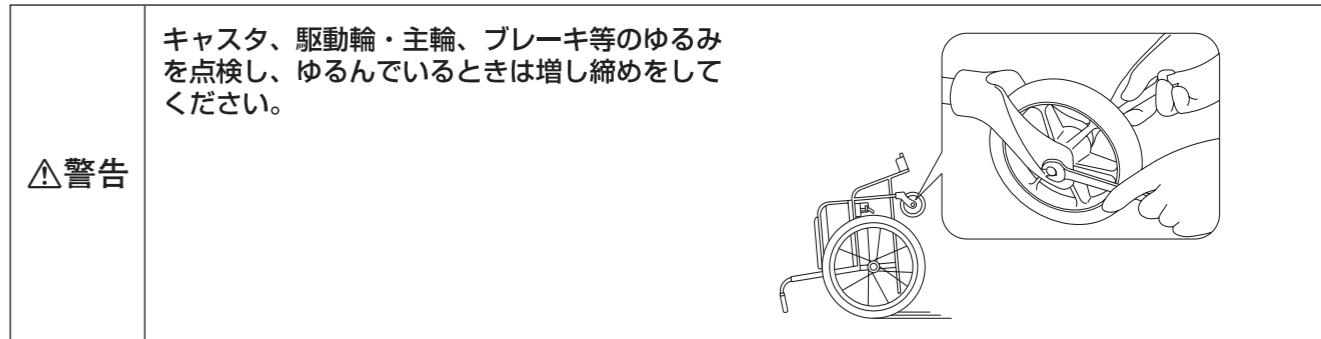
外側のハンドリムで、連結された車輪を操作することができます。



使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。
* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。



- ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調整してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- パンクのときは、販売店または最寄りの自転車店におたずねください。また、パンクしたまま乗らないでください。
- 使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。
(地上より50mm以上あげてください。)
- 車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。

走行上のご注意

- 車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- 溝や踏切の線路による落輪、キャスターの挟み込みには充分注意してください。
- 踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。

